



令和元年6月7日大雨における警戒レベル4発令の避難意識と行動の調査結果【速報値】について

1 趣旨

県立広島大学 防災社会システム・デザインプロジェクト研究センターは、株式会社サーベイリサーチセンターの協力を得て、令和元年6月7日大雨（以下「6月7日大雨」という）における警戒レベル4発令に関する避難意識と行動の調査を行った。当該調査は、令和元年6月11日から12日にかけて実施し、広島県内のインターネットモニターである成人男女5,902人から回答を得たものである。

2 6月7日大雨の避難行動：避難したと回答したのは6.10%

回答者5,902人のうち、6月7日大雨時に警戒レベル4が発令された市町に住んでいる3,199人に対して、避難をしたかどうかを尋ねたところ、避難したと回答したのは6.10%（195人）である。具体的な避難方法としては、「指定された避難場所に避難した（0.13%）」「家族・親戚の住居に避難した（1.34%）」「友人知人宅に避難した（0.47%）」「自宅や近隣施設の上階（2階以上の高層階）に避難した（2.97%）」「その他の場所に避難した（1.19%）」である。避難したと回答した人たちを年代別でみると、年代が上がるにつれて、避難行動をとった割合が低くなっている。

3 新しい5段階の「警戒レベル」の認知・理解：高齢者ほど理解が高い状況

本年6月より導入された新しい防災情報の提供方法（5段階の警戒レベル）について、「よく知っている（5段階の警戒レベルの意味を人に説明できる）」「少し知っている（5段階の警戒レベルの意味がなんとなくわかる）」「あまり知らない（5段階の警戒レベルの話を耳にしたことはある）」「まったく知らない（5段階の警戒レベルの話を聞いたこともない）」の選択肢により認知・理解を調査した。その結果は、「よく知っている（11.9%）」「少し知っている（49.0%）」を回答した60.9%が5段階の警戒レベルを認知・理解していることがわかった（別紙【図表1】参照）。これを年代別でみると、20代（48.5%）、30代（55.9%）、40代（56.6%）、50代（65.1%）、60代（72.5%）、70代以上（83.1%）となっており、年代が上がるにつれて、認知・理解の割合が高くなっている（別紙【図表2】参照）。

高齢者ほど5段階の警戒レベルを認知・理解しているものの、避難行動に結びついていない結果となった。

4 5段階の警戒レベルのわかりやすさ：「わかりやすい」が6割強

しかし自分の意識や行動には変化がないも6割強

6月7日大雨で「避難した人」と、「避難勧告が出ていたが、避難しなかった」2,281人から、5段階の警戒レベルのわかりやすさ等について回答を得た。各項目は、「とても当てはまる」から「まったく当てはまらない」までの6段階尺度とした（別紙【図表3】参照）。

警戒レベルによって、「どのように行動したらいいか今までよりわかりやすくなった」に対して「とても当てはまる」「当てはまる」「やや当てはまる」（以下トップ3）が61.9%である一方で、「警戒レベルが運用される前と比べて、自分の意識や行動に特に変化はない」のトップ3は66.3%となっており、5段階の警戒レベルの効果は限定的であったことがわかる。また「自分の感覚や経験などから大丈夫と思った」のトップ3は74.0%になっており、自分の感覚や経験などに比べると5段階の警戒レベルの信頼度は限定的であったといえる。ただし、「これからも警戒レベルによる防災情報の提供を続けて

ほしい」のトップ3は 84.6%となっており、5段階の警戒レベルに対するこれからの期待が大きいこともわかる。

避難を促進するためには、「警戒レベル4 全員避難」が発令されたら、勤務先や学校も「出社停止」「登校禁止」などの指示を出してくれたら避難すると思う」のトップ3が 72.9%となっていることからわかるように、警戒レベルに対する社会全体の理解の醸成が必要である。

5 今後の避難行動：「レベル4・避難指示（緊急）」でも避難は6割弱

「あなたは、次にあなたのお住まいの地域で次の情報が発令されたら、避難すると思いますか」という設問に対して、「警戒レベル3・避難準備」「警戒レベル4・避難勧告」「警戒レベル4・避難指示（緊急）」「警戒レベル5・災害発生情報」の各項目を回答してもらった。その結果は、「警戒レベル4・避難勧告」のトップ3が 37.4%、「警戒レベル・避難指示（緊急）」のトップ3が 57.7%となっている。同じ警戒レベル4でも、「避難勧告」に比べて「避難指示（緊急）」の方が強い避難意思を示す結果となっており、この傾向は過年度に実施した調査でも確認することができる（詳細は、平成30年7月西日本豪雨及び平成30年台風12号調査を参照のこと）。

6 今後の調査研究等の予定：前年との意識調査比較を近日公表

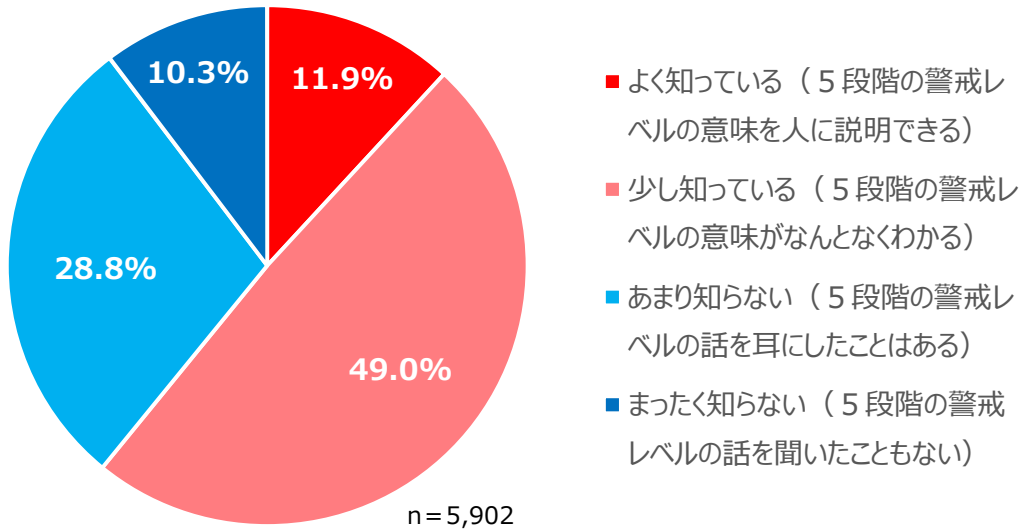
本研究チームでは、今回の速報に加えて、より詳細な避難意識と行動の因果関係の解明を行い、調査報告を行う。

さらに、令和元年7月6日に西日本豪雨災害発生から1年を迎えるに当たり、避難意識の変化に関する調査を実施するとともに、6月20日には速報値を公表する予定である。詳細結果は7月1日より、県立広島大学大学院経営管理研究科（HBMS）のウェブサイト（<https://mba.pu-hiroshima.ac.jp/ja/>）で公開することとしている。

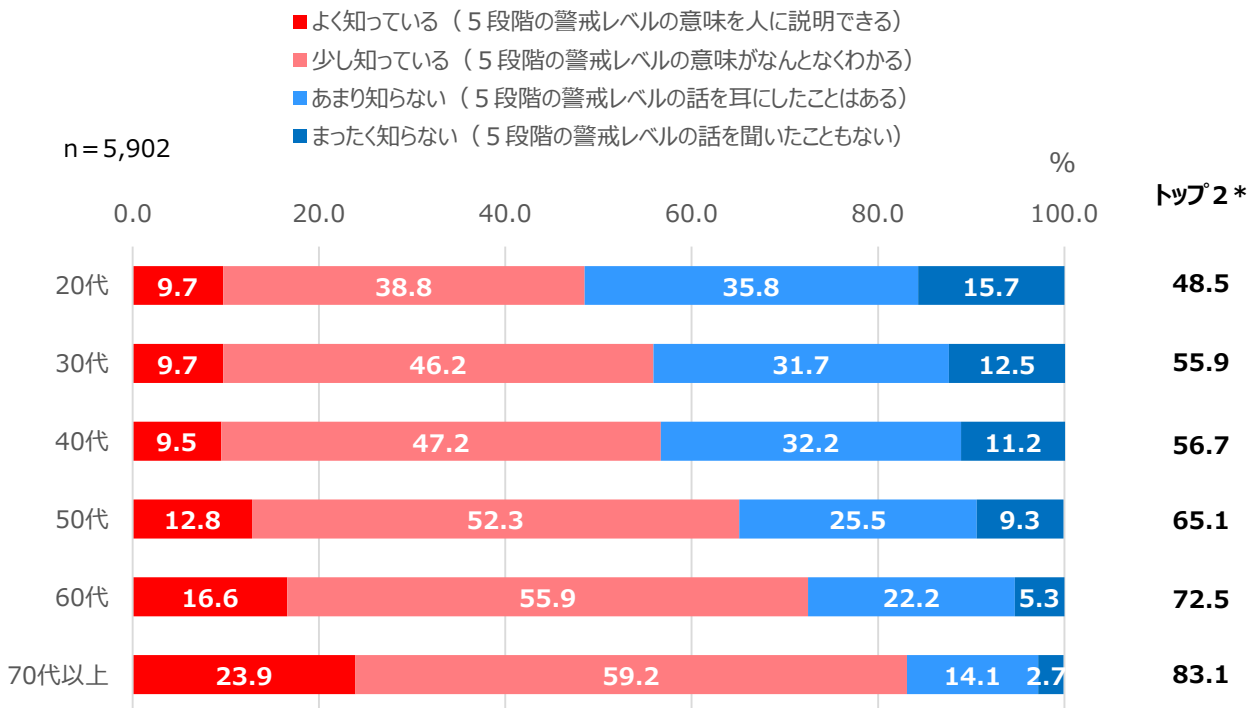
7 お問い合わせ先

県立広島大学経営管理研究科 教授 江戸克栄
（電話）082-251-9791 （携帯）090-1205-0389
（e-mail）edo@pu-hiroshima.ac.jp

【図表 1】新しい 5 段階の「警戒レベル」の認知・理解度

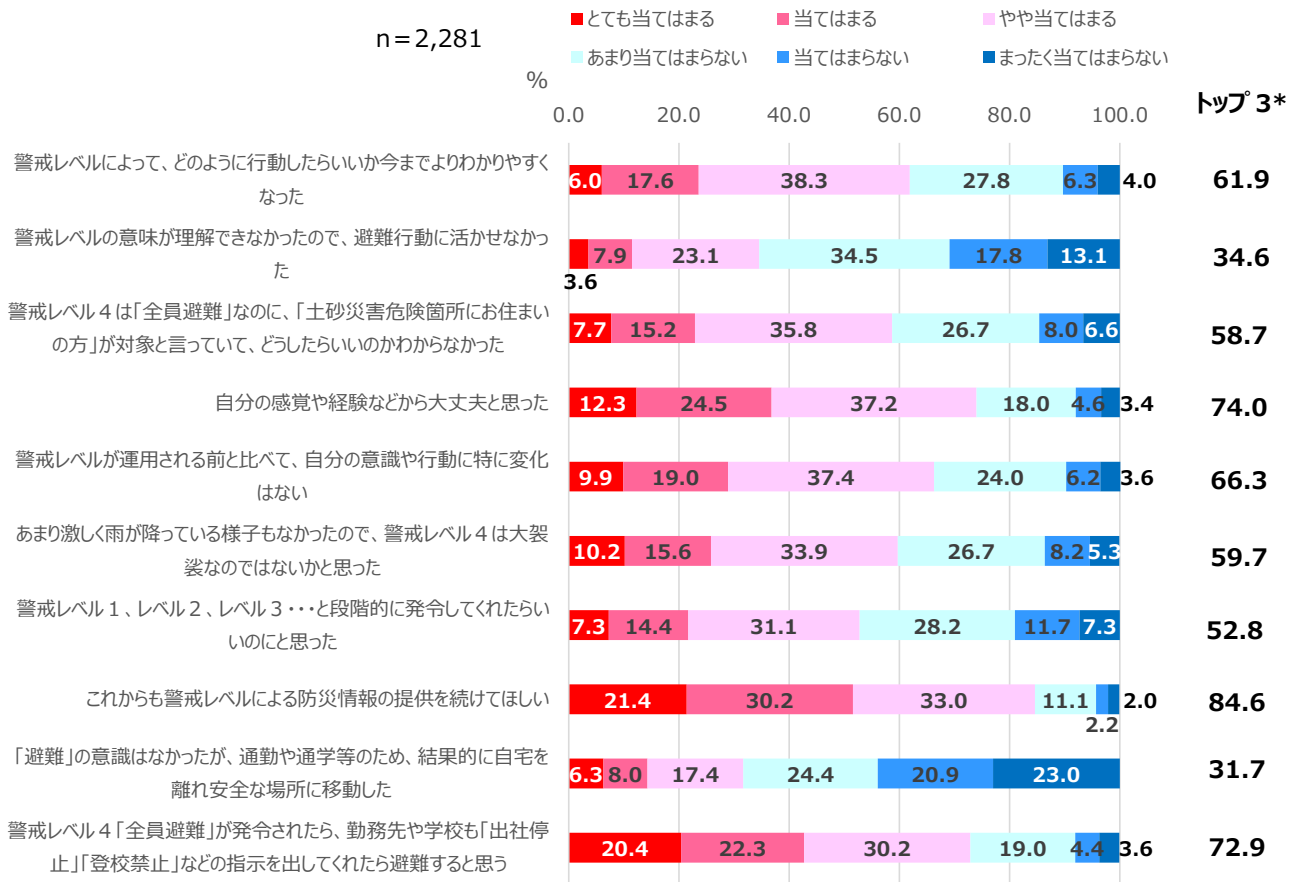


【図表 2】新しい 5 段階の「警戒レベル」の認知・理解度 (年代別)



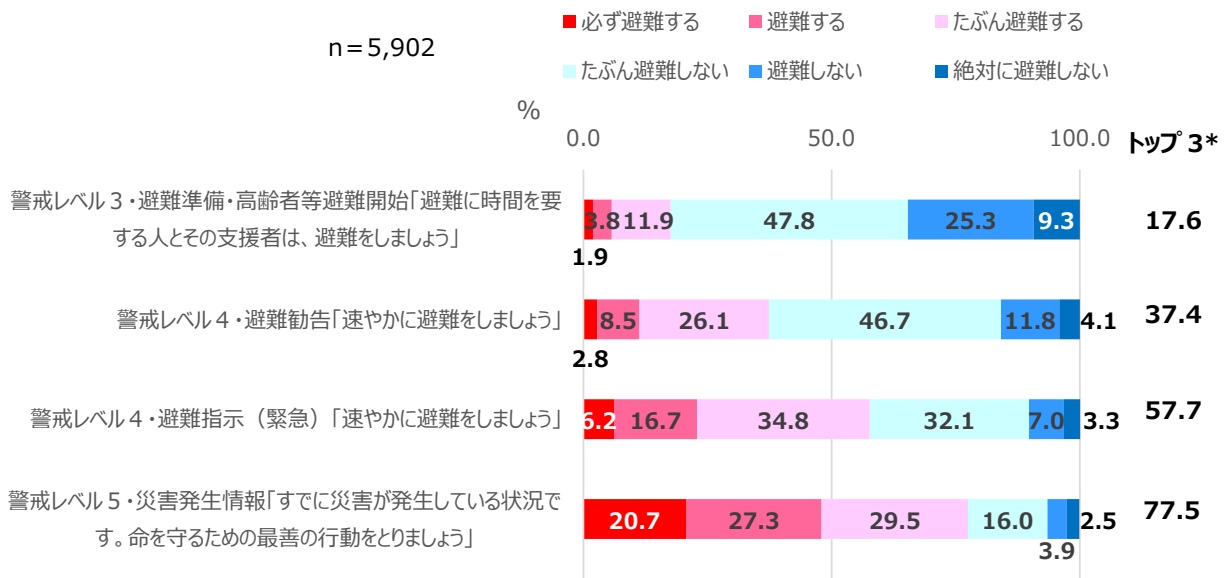
*トップ2・・・「よく知っている」+「少し知っている」の合計

【図表3】新しい5段階の「警戒レベル」のわかりやすさ



*トップ3・・・「とも当てはまる」+「当てはまる」+「やや当てはまる」の合計

【図表4】今後の避難行動意識（警戒レベル3～5）



*トップ3・・・「必ず避難する」+「避難する」+「たぶん避難する」の合計